

1. 案件の概要	
業務名称	中山間地域の少数民族農村におけるアグリツーリズムを導入した生計向上モデル事業（地域活性化特別枠）
対象国・地域	ベトナム社会主義共和国ソンラ省ソンラ市
受託者名 ※共同事業体の場合は全構成員名	特定非営利活動法人国際農民参加型技術ネットワーク（NPO 法人イフパット）
カウンターパート	ソンラ省 ATPU（アグリツーリズムプロジェクトユニット）： ソンラ省農業農村開発局、ソンラ省文化・スポーツ・観光局、 タイバック大学、ソンラ市
全体事業期間	2021年5月 ～ 2024年10月
2. 事業の背景と概要	
<p>本事業は、ベトナムの中でも所得が低く、首都ハノイから300km離れた北西部山岳地域農村を対象に生計向上支援の活動を行った。草の根技術協力事業を活用して同地域で実施した前事業では、2つの村において付加価値のある農業生産を目指し取り組み、栽培の成果は達成できたが、地域の市場では1村単位の量では十分な成果が得られ難いという教訓が残った。それを踏まえ、本事業では、村で生産したものを村で売るという直売を行うことで、付加価値化のメリットを発揮させて増収効果を図ることを重視した。このため、村では作物の栽培だけでなく、購入者を村に呼び寄せる手段として観光活動を取り入れたアグリツーリズム開発事業を行うことにした。村の農業開発活動と観光事業開発活動を結び付けた農村開発のモデル事業である。</p>	
3. 事業評価報告	
（1）妥当性 「高い」と評価できる	
<p>ベトナム政府は、少数民族の多い山岳地域における村の発展を重要課題にしており、地域の経済発展、貧困解消、麻薬撲滅等に力を入れている。ソンラ省にも多数の少数民族が居住しており、少数民族に対する開発事業を重要な政策事項としている。事業対象地域であるボー村は93%がタイ族であり、農業が主産業で、山岳地域に位置するソンラの典型的な農村でもあることから、モデル村としての選定は妥当であったといえる。加えて、本事業では、貧農に対する支援、女性活動への配慮、環境保全なども重視したが、受益者のニーズおよび省の政策とも一致していた。</p> <p>アプローチにはアグリツーリズム開発を用いたが、これは、魅力的な自然環境と農村文化を持つ山間地域の小農村にとっては有効な開発手法であり、一村一品運動など日本の多くの地域でも実施されている。ソンラ省も一村一品運動はすでに実績があり、手法は円滑に導入された。さらに、提案自治体である笠間市は、中山間地に位置し、農業に強みがあるなど、ソンラ市と地理的条件が類似している。ただし、笠間市は、地域おこしを政策の中に取り入れて、一村一品運動、特産品開発、第6次産業化、道の駅などの農業と観光を結び付けた経済活動で近年成果を上げている。地位活性化枠として日本の地域の開発の知見を開発途上国に伝える、という主旨からも計画は妥当であったといえる。</p>	
（2）整合性 「やや高い」と評価できる	
<p>我が国のベトナム国別開発協力方針において、「農林水産業の高付加価値化」および「脆弱性への対応」は重点分野に掲げられており、少数民族の貧困削減、格差是正に貢献することを狙いとしていることから本事業の方向性と一致する。ベトナム農業農村開発省（「MARD」）はJICA技術協力プロジェクト「北部地域における安全作物バリューチェーン強化プロジェクト」（2022-2026）を実施中であり、ソン</p>	

ラ省も対象地域とされていることから、本事業は間接的に同農業政策を補完できる整合性を持っているといえる。加えて、本事業は、JICA 技術協力プロジェクト「持続可能な農村開発のためのタイバック大学機能強化プロジェクト」の成果を現地に還元することを目的のひとつとして始められたものである。JICA は海外協力隊の対象分野として「村落地域の観光開発」にも注力しており、相乗効果が見込まれているが、新規派遣や連携に向けた協議を始めた。

(3) 有効性 「高い」と評価できる

本事業のプロジェクト目標は「農民による農業と観光を融合させたアグリツーリズム事業が農村開発の生計向上のモデルとなる」であり、測定指標としては「アグリツーリズム事業の導入により、組織参加メンバーの半数以上が生計向上効果を上げられる」と設定していた。終了時の調査では、事業にかかわった 22 名のうち、15 名が十分収益が上がった (68%)、7 名が少し上がった (32%)、0 名が変わらなかった (0%) と回答した。このことから本事業のプロジェクト目標は十分に達成できたと判断できる。以下に、具体的に設定した 4 つのアウトプット (想定する成果) それぞれの達成状況について説明する。

① アグリツーリズム開発を実践するために必要な村の組織化が図られ、人材が育つ。

村長を中心に 5 人のメンバーでボー村開発運営委員会が組織された。活動グループとして農業における野菜栽培・花卉・果樹栽培グループ、観光における環境養魚・民宿・文化舞踊グループが設立され、期間中活発に活動を行った。村の観光プロモーターとして民泊のクアン氏が任命された。本事業では、ソンラ周辺、ハノイ周辺地域の農業生産地、観光村等で国内研修を実施、本邦研修を 3 回実施した。研修に参加したメンバーは目まぐるしい成長を見せ、ボー村の将来を見据える上で重要な人材となった。

② アグリツーリズムを基にした付加価値のある農業生産物や特産品が生産される。

農業グループではネットハウスを 5 棟建設した。減農薬栽培のみならず、多種多様な (トマト、メロン、花卉としてトルコギキョウなど) 作物を栽培できるようになり、いずれも、付加価値化に有効であった。

この他、観光農園としてコーヒー、プラム園を整備した。特にコーヒー園では付加価値をつけやすい品種に切り替えるために、新品種の接ぎ木を実践した。観光客の満足度向上を狙い、タイ族の伝統的水車の設置、観光案内版、村の清掃活動、道路花壇作成するなど、環境整備が実施できた。

③ プロジェクトで実施された観光活動の民宿と農業観光における農業体験の増加。

当初はボー村にある民宿は 2 軒のみだけであったが、事業終了時には 3 軒となり、十分な観光客に対応できるようになった。それぞれの民宿では施設の改善が進み、タイ族料理の提供、タイ族の民族舞踊を見せる機会を増え、来村者 (宴会客) と人の交流の機会増につながった。民宿グループは近隣村のレストランオーナーと定期的に勉強会を開き食事内容の向上を目指している。民族舞踊グループの活動は商業目的だけでなく、民族文化維持にも貢献しているという報告も届いている。

本事業で建設したネットハウスは、近隣のタイバック大学農林学部の学生たちの野菜・花卉栽培の演習や体験農業としても活用された。同大学経済学観光学科の学生もコーヒーのチェリー摘み実習を行った。今後、これらが実習・体験が定着・拡大すれば、ボー村の農業、アグリツーリズムの応援者・後継者の育成など有効な手段となると考えられる。

④ 生産・加工・流通を一体とした活動で村の農業を発展させる (農業の 6 次産業化)。

・加工食品製造で必要とされる水の使用には政府の許可が必要とされ、市販用の加工食品の製造はプロジェクト活動期間内に実現できなかった。しかし、これに代わる加工品 (豚の干し肉加工、ドライフルーツ、ピクルスなど) の販売を検討している。

・ホームステイと文化観光センターが隣接していることもあり、顧客への農産物の紹介が可能となり、

ホームステイの活動を通じての販路拡大に有効な手段となった。

・民宿についてはホームページの開設、SNSによる発信を行っているがまだ十分に効果を発していない。ソラ省において民宿のパンフレット、バーコード（QRコード）作成等を行うとの方針があり情報発信体制が出来ると考える。また、ハノイの旅行会社から観光センターに照会があり、将来的にハノイとの関係が構築されれば観光客増加に有効である。

（４）インパクト 「非常に高い」と評価できる

当初想定した以上に、本事業を通じて少数民族であるタイ族の村が活性化した。ポー村の要請により、女性の民族舞踊グループの活動や民族のシンボルである刺繍作成を含む伝統保存事業を追加したが、これが観光ビジネスとして村の収入増にもつながった。最終年に実施した村祭りについても、タイ族の伝統的行事の数年ぶりの復活ということで、それまで事業に直接関わりのなかった村人（間接的受益者）も多数（村人の8割）参加した。また、これらの活動を通じて近隣村に住む同じタイ族同士の交流も盛んになった。参加者からは、事業を通じて「タイ族としての団結力が高まった」、「自身の文化に誇りを持てた」という声が聞かれている。終了時に行ったヒアリングからも、本事業を通じて、農民間の幸福度の増加、農村社会の活性化と調和、アグリツーリズム活動を実施したという自負心、これらが高まった、ということがわかった。

農業活動においても、従来の自給用栽培から販売用栽培への農業体系の変換が進み、中でも女性が農業で活躍する機会の拡大が図られた。減農薬栽培やネットハウスなどの施設園芸の技術移転により、高付加価値が進められる手法が広まり、農民が自身でネットハウスを建設するようになるなど、自立心が高まったという報告も受けている。

事業開始前は、各世帯の収入向上を望む声が大きかったが、本事業の実施を通じて、特に村の美化活動（村の清掃、草刈や道路沿い花壇づくりなど）、新しい栽培手法を習得するための情報交換、導入された資機材の共同利用のためのルール作り、これらを通じて、世帯同士、農家同士が学び合う協力体制が生まれた。これは今後、アグリツーリズムを村で活性化させていくための重要な要素となり得る。

（５）効率性 「中程度」と評価できる

新型コロナウイルスの世界的蔓延による影響で1年間事業を延長したが、プロジェクトの活動は、ほぼ計画に沿って実施できた。投入機材施設、基盤整備についても大きな遅延がなく導入できた。しかし、事業計画や事業費の変更についてカウンターパートと協議や調整に時間を要してしまった。これは、カウンターパートが4機関と多数あったことや、ベトナム特有の事業実施体制・方法との問題もあり、事業期間中には解決できなかった。一方で、対象地域であるポー村では、村長、グループリーダーと信頼関係を築き、活動を効率的に進めることができた。本邦研修では提案自治体である笠間市より、ベトナム国内研修では前の事業から交流のあるベトナム国立果樹野菜試験場（FAVRI）など外部パートナーの理解や協力を多く得ることができ、事業成果向上に繋げることができた。

（６）持続性 「高い」と評価できる

本事業終了後も、ポー村は農業観光村としてさらに発展し、期間中に実践した活動の持続性は保たれると確信している。本事業を通して、アグリツーリズムを推進する人材が村の中で育成されたこと、農業・観光事業で裨益者に直接的な経済的利益が生じ、生計向上効果を住民が実感していることが大きな理由である。特に、農業グループのメンバーは、指導されるだけでなく自身で栽培できる技術を身に付けられたこと、リーダーを中心に直売所で売れる野菜・花卉の選定もできるようになったことから、今後もより生計向上効果を高める改善は進むと期待できる。

観光活動では民宿事業者が3軒となるが、宿泊客増の伸びにバラつきがある。第1民宿は約300人/年に達し、外国人の宿泊客も年々増加し、来客数（宴会含む）も増えている。第1民宿以外は微増傾向

で、特に第3 民宿については新設されたばかりで、今後、顧客の確保を継続して維持できるかが課題である。これについて、事業期間中は、ポー村に文化観光センターを新に設置し、情報発信ができるように整備した。同センターがソララ省観光部、ソララ市からの支援を得て、広報、情報発信基地としての整備が具体化すれば民宿運営の持続性に貢献できると考えられる。

本事業の成果品として、ポー村のアグリツーリズムの手法をまとめたガイドブックを作製した。ソララ省もこの事業をモデルとして他の地域に拡大したいという意志があり、また、タイバック大学ではアグリツーリズムの実例村として、学生への教材、研究例として持続的に活動をフォローする計画があるため、事業活動の継続及び成果の拡大も期待できる。

(7) 市民参加の観点での評価 「やや高い」と評価できる

期間中に3 回実施した本邦研修では、笠間市内の見学受け入れ機関 20 団体に協力いただくことができた。笠間市民との交流を狙った公開セミナーを2 回開催し、各回約 30 人の市民が参加し、両地域の文化、生活などの共通点・違いを理解しあう機会を創出することができた。また、提案自治体である笠間市からは、10 名以上の市職員らがベトナムを訪問したが、参加した職員にとっては貴重な経験となり、国際化意識の向上につながった。これらを通じて、笠間市としてどのように国際協力に関与するか、本事業の成果をどのように生かすかと検討も進んだ。

4. 今後活かすためのグッドプラクティス・教訓・提言等

(1) 現地でのネットワークをフル活用し、技術指導ができる人材を探す

本事業に参加した農家は多くの新しい技術を習得する必要があったが、コロナ流行や予算の制約があり日本人専門家が長く現地滞在できない状況に直面した。そこで、まずは栽培に必要な施設（ネットハウス5 棟）の設置を早い時期に行うことで、栽培時期を逃さず、より多くの作付け・収穫の回数を確保できるようにした。次に、現地で技術補完指導ができる人材の確保を急いだ。具体的には、先行して実施した草の根技術協力事業で育成した他の村の先進農家、同先行事業でも協力を得ていたベトナム国立果樹野菜試験場（FAVRI）の技官に協力を持ち掛けた。いずれも快く引き受けてくださり、日本人専門家が渡航できない時期でも技術指導が可能となり、難易度が高かったネットハウスでのトマト、メロン栽培では予想以上の収穫量を上げることができた。

技術移転の成果はいかに人材を育て、その人たちがまた次の人を育てるかであり、人材育成は長い目で見ていく必要がある。これには、JICA ベトナム事務所からの支援を受けられたことが大きかった。業務従事者が現地活動を行う際は、毎回 JICA ベトナム事務所に立ち寄り、事業進捗を報告し、JICA 担当者からもアドバイスなど得ていた。これにより、ベトナム独自の社会体制、慣例などの情報が得られ、事業計画の修正の参考になった。

(2) 現地住民の新しいアイデアを積極的に採用することで、大きな変化がみられる

本事業は、付加価値のある農業生産を行い、民宿客・観光客を対象への直売を通じて、農家の収入向上に繋げることを狙っていたが、事業に参加した農家の発案で、スマートフォンを利用したネット販売を試行した。これは、SNS などのネット上に生産情報を掲載したところ、市内に住む多くの顧客予備軍から問い合わせがあり、農家は顧客の指定した場所にモーターバイクで宅配する、というシステムである。これが想定以上の収益となったのだが、地域住民が直接事業に関わり、本人が裨益効果を確認できれば、また新たな改善案が生み出されることを実感した。

他の事例では、本邦研修に参加し、笠間市の農村が綺麗であると実感した村長が、帰国後すぐに、婦人会や青年部へ呼びかけ、観光村としての清潔感を出すために村の一斉清掃活動日を設定したということもあった。まさに「百聞は一見に如かず」の変化だった。これらから得られる教訓として、進化の過程は物が動き出すと事が起こる、ということがあるが、プロジェクトでも人を動かし、事を起こし、

工夫をさせることで、新たな動きが生まれるといえる。これらを現地住民と何度も試行し、検討していただくだけの柔軟な姿勢をもてるかどうか、事業成功の鍵を握っているといえる。

(3) 間接受益者への裨益を狙うには「村祭り」企画などの機会が有効

ポー村の住民は1195人いるが、本事業では約40人を直接受益者と設定し、彼らが中心となり農業、観光開発に関する活動を精力的に行っていた。ただ、事業終了後に成果を村に定着させるためには、直接事業に参加していない村人の巻き込みが重要である、と常に考えていた。そこで、ポー村からの要望もあり、村人全員の意識を高めるため、10年前まで行っていた村祭りを復興することにした。結果として、村人の関心は強く村人の約8割が参加した。伝統的儀式から始まり、タイ族の伝統舞踊、伝統的遊び、綱引きなどが行われ部落ごとの対抗戦もあり、村人の融和と団結が感じられた。祭りのセレモニーでは、事業成果の紹介に加え、中心となってアグリツーリズムを推進した村長や各グループのリーダーに花束が贈呈された。「村祭り」などのイベントを活用して事業を紹介することは、より多くの村民（間接受益者）の啓発の場として有効な手段であったといえる。

(4) プロジェクトの趣旨説明の必要性（コロナ禍による説明の欠如による運営の困難性からの経験）

コロナ禍の影響を受け、事業開始前の渡航が叶わず、管轄機関であるソンラ省人民委員会への説明やカウンターパート機関との話し合いが十分に行えないまま事業開始となった。このことが、事業運営に困難な問題を引き起こすこととなり、特に予算計画や処理の方法への理解が、日本側とベトナム側で大きく違っており、調整に多くの時間を費やした。加えて、カウンターパート機関が4つあり、各部署の思惑を含め縦割り行政の負の部分が、事業運営を困難にした。この経験から、事の初めが大切であること、事業開始時には、草の根技術協力事業の性質や予算の仕組みについて、丁寧かつ双方が納得のいく説明をすることが信頼関係を築くと考える。なお、観光活動促進や観光客の増加を図るには、広報活動が欠かせないため、カウンターパート機関の協力を得ながら現地メディアへの情報発信も行うと考える。

(5) ソンラ省ソンラ市ポー村への提言として

- ① ソンラ省が言及するように、ソンラ市はハノイーディエンビエンフ（独立記念地としての観光地）への中間に位置する立ち寄りの地であるが、市の魅力として、特色ある農業と都会にない中山間地の自然景観を生かしたアグリツーリズムによって、来訪者が少しでも滞在したくなる地域おこしを生み出すことは、十分に可能だとみている。これらを踏まえ、計画中的新道路建設を意識し、市の東側地域の新期開拓農業地にアグリツーリズムの手法を導入することも一案であると考えられる。
- ② ポー村におけるアグリツーリズム開発は、地域住民の開発意欲の高さ、行動力によって良い方向に動いたと言えるが、本格的な活動はこれからであるとみている。ポー村には、栽培地および生産量のさらなる拡大、特色ある農産物の栽培へのチャレンジ、質と量を兼ね備えた生産体制を消費者に示すこと、観光客の継続的な増加のための施策の実施を期待する。これには文化観光センターの持続的な有効活用や、顧客や消費者への情報発信できる体制を整えることも必要で、ソンラ省やソンラ市の継続的な支援も期待したい。
- ③ 提案自治体である笠間市からの提言として、ポー村ではプロジェクト終了後も、竹材などの天然資源を活用した持続可能な農業の実現、伝統舞踊などの魅力あるコンテンツや SNS での情報発信などを組み合わせた、観光客の集客に向けた取り組み強化、笠間市が提案した村の清掃活動の継続してほしい、との期待が寄せられている。

※A4 サイズ5枚を目途に簡潔にまとめてください。